



発行所 アシュラムセンター
523-0894 近江八幡市中村町 567-2
Tel 0748-33-4030
Fax 0748-33-8856

アシュラムセンターホームページ
www.ashramcenter.jp

編集 アシュラム誌編集委員会

振替 01050-6-53772
アシュラムセンター

印刷 明文舎印刷商事(株)

解題

アシュラムとはインドの言葉で「退修」という意味で、スタンレー・ジョーンズ博士によって日本に紹介されたものであります。祈りの生活をもってみ前に自らを整え、今日に於ける主のご委託にこたえんというのがその願いです。

先月に引き続き、ヴォーリス師のことを紹介しよう。建築家、実業家、音楽家、そして教育者として多くの功績を称え讃られているヴォーリスだが、その最も偉大な働きは、「キリストの使者」としての働きにあると私は思っている。神の国の建設を目指し、ここ近江八幡にユニークなキリスト教共同体を打ち立てたヴォーリス。しかし、彼の究極の目的は「近江国ニテ教派ニ関係ナク、基督ノ福音ヲ宣伝」(近江兄弟社綱領)することであった。この点は、私たち超教派の祈りの運動であるアシュラムとも通ずるものがある。目の前に広がる琵琶湖をガリラヤ湖に見立て、その名も「ガリラヤ丸」という船を仕立て、湖国を宣教して廻られた通りである。前号でも触れた通りである。その話を聞くにつけ、心躍り、胸熱くされる。しかし、それは決してロマン溢れる冒険譚の類ではないのだ。実は、この琵琶湖岸伝道に先立ち、彼は綿密な宣教計画を立て、事前調査を行なっている。彼と共に、当時の吉田悦蔵師をはじめとする調査隊5名は、「1911年

に、大津から琵琶湖の西岸を徒歩旅行で北上し、この地方への福音を述べ伝える下準備の調査を行なった」(奥村直彦著『ヴォーリス評伝』より)。スケッチをし、写真を撮り、時には警察から不審者として尋問されながらも、彼らは、この地方の人口、職業、宗教事情、そして気風に至るまで、事

瞑想

あなたがたの抱いている希望について説明を求めらる人には、いつでも弁明できるように備えていなさい。

Iペトロ3:15

主幹牧師 榎本 恵

方の人々が、仏教の多くの宗派やあらゆる自然物を神とする神道を信じる、非常に信仰心の篤い人々であるけれども、同時に、一つの神を信じるキリスト者には相容れない、神仏混淆(シンクレティズム)であることを見抜き、こう語っているのだ。「いったい寺や神社が人々に施しているものは

れていく術をもつて乗りこえてきたことは確かであろう。そしてそれは、キリスト教の私たちの「すべては神のみ手の内にある」という信仰にも相通するものでもある。しかし、私たちには、運命をただ受け入れるだけではない、希望があるのだ。決して未来に対し、諦めるのではなく、必ずすべてのことを良きに変えてくださる方のおられることを信じ、その新しい命を生きる希望に生きるのだ。

ペテロの手紙は、それを「神は豊かな憐れみにより、わたしたちを新たに生まれさせ、死者の中からのイエス・キリストの復活によって、生き生きとした希望」(Iペトロ1:3)であると断言する。そして「あなたがたの抱いている希望について説明を要求する人には、いつでも弁明できるように備えていなさい」(Iペトロ3:15)と命ずるのだ。

友よ、私たちは、いつもその生き生きとした希望を、弁明できるものとなる。復活の命を信じ、再臨の日を待ち望もうよ。諦めることによってではなく、希望によって未来を信じるために。



祈りの友、ファミリーの皆様と。
前列左から 島隆三師、岩城兄、
後列左 恵師、築山姉、そして岡部姉。

日々の生活の重荷に
疲れ、聖書の御言葉も
遠くに聞こえる中に
あつて、信仰の母とも
尊敬していた今は亡き
小林佳子姉に、無性に
会って話をしたくなり
ました。その日、昨年
亡くなった主人の喪中
の挨拶のために年賀状
の整理をしていました
ら、そこに佳子さんか
らの一昨年の年賀状が
出てきました。初めて
読む年賀状には「年頭
アシユラムはすばらし
いですよ。一歩踏み出
し、向こう岸へ渡れ!!」
と書いてありました。
奇しくもその時、届
いていたアシユラム誌
に、年頭アシユラムの
申し込み書が入ってい
ましたので、迷うこと
なく直ぐに申し込みの
電話をかけました。い
つもなら、仕事のこ
と、家庭のことを思い
絶対無理と諦めている
ところでしたが、しか

岡部 知幸子
琵琶湖コンファレン
スセンターの窓越しに
見える琵琶湖が雪吹雪
に煙る中、第49回年頭
アシユラムが開催され
ました。初めての年頭
アシユラムに戸惑いな
がらも、御言葉に聴
き、祈る。二泊三日の
時を経て豊かな恵みを
頂くことが出来まし
た。

小林佳子姉に導かれた 年頭アシユラム

し、主は、佳子さんを
通してこの場所へと導
いてくださいました。
『目を覚ましていな
さい。信仰に基づいて
しっかりと立ちなさい。
雄々しく強く生きなさ
い。何事も愛をもって
行いなさい。』Iコリ
ント16・13のみことば
を頂きました。
今朝も、新しいファ
ミリーの祈りの時に聖
書にはさんでいる小林
佳子姉から頂いた、短
歌のしおりが語りかけ
てくださいます。
恐れるな
雄々しくあれと
わが風ぐるま
まわれよまわれ
小林 佳子
イエスは主なりで
（近畿福音ルーテル教会
三重アシユラム
実行委員）

小林茂男兄 みもとに…



御名を讃美します。
父、小林茂男が2月7
日、92歳で召天しました。
父は、定年と同時にバ
プテスマを受けました。
父の書いた「主は憐れみ
により、夕方に入らせて
いただいた私たちを、朝
から働いておられる先輩
の方々と分け隔てなく同
じように、豊かなお恵みを下さり、感謝しており
ます。」という証から、「天の国に入る恵み（マタイ
20：1～20）」という告別式説教をいただき感謝
でした。



天国で、母の車椅子を押しているのかなあ、母
も一緒に歩いているのかなあ等と思い巡らしてい
ます。
多くの方々との生前のお交わり、多くの祈りに
心より感謝申し上げます。（長女 庄司恭子）



12年程前の、常任運営委員他。天上の友…後列中央・小林兄。
前列左・佳子姉。隣り和田子母、後宮師。後列右、加々美師。
小林兄左・岸本姉。天からの見守り、心強いです！



今回の年頭アシユラムで、立ち上げられた新常任運営委
員。初の委員会。Zoom参加の方も。共に祈り。

台湾愛修會に参加して

橋本 るつ子

第19回国際平和愛修會が2月19日〜21日まで台南市郊外、烏山頭湖境会館で行われ、日本からは齋藤篤牧師を団長に、名古屋より河合恵子姉、近江八幡アシラムセンターより橋本が参加いたしました。

台湾からは75名の参加者があり、暖かく風光明媚な素晴らしい環境のもと、静かに聖書に聴き、ファミリーで恵みを語り、祈りあう時が与えられ、主による交わりの暖かさを心いっぱい受けることができました。

私は何よりも感動したことは、台湾の愛についてです。今回の主題はヨハネ福音書13章1節でした。日本語では「世にいる弟子たち

を愛して、この上なく愛し抜かれた」とありますが、台湾の聖書では「主的疼疼到底」と書かれてありました。何か変だなーと思っていましたら、台湾では神さまの愛は「疼」と書き、「テイエン」と読み、神の愛は痛みを伴い、親の愛のように私たちがどんな状態であつても受け入れてくださる、そして「主的疼疼到底」は「主は徹底的に骨まで愛された」という意味だと教えていただきました。

許されるに値しない私たちの罪をご自分のひとり子を十字架につけてまで許し、神に立ち返れ、神に立ち返れと何度も機会を与えていくのださる神さまの愛の深さに喜び、感謝し、どのように応た

えていけばよいのか、鋭く問われた思いがいたしました。改めて聖書の言葉は他の誰かではなく「私」に語られ、「私」が問われているのだと強く思いました。



→日本からの奉仕者 齋藤篤師 (アシラムセンター 常任運営委員)



→自己紹介される河合恵子姉 (右)と通訳下さった王牧師。

主のご受難を覚えるこの時、もう一度自分の生き方を考え直す時を与えられ、感謝の思いを胸いっぱいに戻国いたしました。準備してくださった台湾の先生方、同時通訳の労をとってくださった王先生、黄先生、チャイムコンソート♪(アシラムセンター奏楽者 なるん食堂主催 etc.)

いえじま 雑記 10 翻訳の仕事コツコツと

最近翻訳の仕事のコツコツと続けています。準備している本が二冊あり、来年刊行する予定です。翻訳は肉体労働だと言った人がいますが、たしかにそう思いたくなるほど大変なのが翻訳という仕事。マラソンか、山登りにも似て、これから翻訳する本を前にすると、本当に最後のページまで行き着くかどうかと不安になります。毎日数ページずつ、ひとつの単語の前で立ち止まり、あーでもないこーでもないと言葉を探して。さてどれくらい進んだだろうかと残りのページ数をときどき確認しては、絶望的な気持ちになって。



ブラジルアシラム、手作り豊富なランチタイム!

翻訳は長距離走なのです。それでもゴールが見えているのが翻訳という仕事。いつか最後のページにたどり着くとあります。その点、どこに向かっているのかわからないまま書き続ける自分の文章とは違うようです。聖書も翻訳されているからこそ、わたしたちはそれを読むことができます。翻訳というのは、ある種の献身が必要とされます。言葉に対する献身、書物に対する献身。ある本と出会ってしまえば、それがどれほど気の遠くなるようなものであっても、訳さざるをえなくなるのです。そんな衝動が翻訳するという行為を動かしています。聖書を翻訳した人たちもそうだったのではないのでしょうか。 櫻本 空 (翻訳大賞 最終選考5作品の中に!感謝!)

尊いご献金、感謝です。この度、ヨセフ基金より、輪島教会にお見舞い金をお献げ致しました。教会より御礼のハガキを頂きました。引き続き、地震被災地のため、祈り合わせて下さいますように。



〈誕生日カード感謝のお便りより〉早天後、お祝いのごことばを書いて下さりうれしゅうございました。：
和子先生もいつもごていねいに書いて下さったなあと感謝して思い出しています。

第18回 ブラジルアッシュラムに 参加して

玉置 幸子

2024年2月10日、初めてアッシュラムに参加しました。これまでのご案内がありませんでしたが、この度は神の思し召しであつたと信じています。これまでの信仰生活の中で、転換期に大きな決断をする



遠いブラジルにて出会えた信仰の友。

皆様の深い笑顔に迎えられ…近い友に。Obrigada!
訪ね、祈る中で私たちに示されたのが「これまでできてきたことを後継者に譲り、退くこと」でした。
この度、榎本師を通して学んだこと、「新しい葡萄酒は新しい革袋に入れるものだ。」マルコによる福音書2章22節。これは自分自

時には、日常を離れて神と向き合う必要を感じ、実行してきました。一昨年、恩師が亡くなり、その夫人の口を通して語られた「後はあなたに任せましたよ！」と言う言葉に、以前出向いた開拓伝道地が思い出され、再び開拓伝道に再出発する決心をするに至りました。

身の変革であり、古さからの脱却であり、それにより新しい道が開けるとのことでした。肝心要、伝統は無くさず、改革、現状に合わせるアップデートすることであると。又、「新しい」の語源は「あらたしい」で改めるという意味もあるとのことでした。千利休の言葉を引用すると「守 破 離」これは師匠から教わった型、作法を徹底して「守り」、自分にあつたより良い型を模索し試すことで既存の型を「破る」ことが出来るようになり、さらに既存の型から「離れ」て自在となり新しいものが生まれるということだそうです。ただし決して「本」を忘れてはいけないということ。本来の目的から離れ、形にとらわれ、見せる為の断食はしてはならないと言われます。イエス様は律法を

廃する為では無く、完成させるために来られたと言われます。「本」を忘れず、み言葉に聞くことにより、道筋が示され、聖霊の働きにより真理に出会うことが出来ること。

新しい出発にあたり、今回示されたことは水と霊によって新たに生まれ変わることが求められていること。古い自分水によって死に、霊によって生かされることにより、初めて神の器として用いて頂けると言うことだと思えます。

神に遣わされた者は聖霊の働きにより、神の言葉を限りなく与えられ、常にイエスの光に照らされ、その光を証するものとされる。今回一番心に響いたみ言葉は「あの方は盛んになり、私は衰える」ヨハネ3章30節 イエスの目で見、その耳で



聞き、人々に仕えることにより、私の内におられるイエス・キリストが人々に届きますように、その器として用いられ、そしてイエスを信じる人達が、そのみ子に全てをお与えになった神により、永遠の命を受けることが出来ますように。
（ブラジル聖公会
サンパウロ教区
ペレイラ・バレット
聖アンデレ教会）

→ブラジルでの再会に感激！
左より後藤兄（以前来られるつこ姉や光太兄と近江を散策）、小井沼師、昨年シメオンにご宿泊。早天祈禱会で、ブラジル伝道についてミニ講演。右が玉置師。秋にご来訪予定。

…わたしを信ずる者は死んでも生きる…イエス様のことは意味深さを日毎に思いめぐらしています。
今日からレント。十字架を仰いで過ごします。 唄野 絢子



主幹牧師の2023年度の振り返りと2024年ビジョン(2)

〔早天祈禱会の祈り〕「小さき者が年がいもなく計画している事に皆様のお祈りにより力を与えられ感謝します。どうか主よ、あなたによりすがって、この事があなたの栄光をあらわす事となりますように。」佐々木敬(92歳)

施設内で、三浦綾子読書会を始めの事に...! 早天の友、工藤姉(三浦綾子文学会)の助言も感謝
毎朝のみことばに力を得て立ち上がられた佐々木兄に一同、励まされています。早天聖書箇所はヨシユア記に。

2. 第18回国際正義平和アシュラムin新潟
さて、次に、コロナの大きな影響を受け、一時は開催を危ぶまれていました、「第18回国際正義平和アシュラムin新潟」が、昨年10月31日から11月2日にアートホテル新潟駅前前で無事開催することができました。台湾からの17名の参加者を含む、56名の参加者と共に、主題聖句「み言葉を行う人になりなさい」(ヤコブ1:22)を掲げ、2泊3日の祈りとみ言葉に聞く時を持つことができました。2日目には、敬和大学前学長 山田耕太氏の講演、また夜には日比野則彦、愛子ご夫妻の「天上の音楽コンサート」を、台湾イェンツーミンのタロコ族の賛美と舞踊と共に、素晴らしい時を持つことができました。特に、会の最後には敬和学園高校の寮生の皆さんと共に、全員で讃美歌「幾千万の母たちの」を合唱できた事は、今も思い起こすと、感動で震えてきます。ウクライナとロシアの戦争は続き、イスラエルとパレスチナの戦闘は悲惨を極め、ガザの地は廃墟と化してしまっています。台湾の総統選挙を前に、中国の威圧は日を迫るごとに強まり、またミャンマーをはじめ、報道のなされない地域でも、激しい戦争が起こっています。世界は、今や第3次世界大戦の中にあるのだという人も現れています。果たして、国際正義平和などということは、夢物語なのでしょうか。ただの理想主義者の戯言に過ぎないと一笑に伏されるものなので

しょうか。確かに祈りによって平和を求めようなどと言うことは、お花畑なのかもしれません。しかし、私は、頭の中がミサイルや地雷だらけであるよりも、世界は美しい花畑となるのだと祈るものでありたいのです。アシュラムの祈りとは、現実を無視する祈りではなく、その現実の向こう側にある世界を見ていく祈りなのです。

アシュラム終了後、台湾のメンバーと共に、佐渡島へスタディーツアーを行いました。お互い言葉の通じない同士でしたが、共に食し、共に歌い、共に旅する中で、本当に友となり一つとなっていくことを感じました。鼓童の太鼓を共にたたき、その音を合わせていく時、これこそが平和のハーモニーであると心から喜ぶことができたことを報告します。

このために、準備を重ねていただきました吉澤昭男牧師をはじめ、新潟アシュラム、台湾の皆様、三村修牧師には、心より感謝いたします。(続く)



佐渡島で。後方右から6人目。王師左、三村師(佐渡教会)。自然な細やかさ?で、ご案内くださった。感謝。

ブラジル伝道より、無事に帰国した。ルージラモス教会、アシュラムの40回目の記念を、その最初から関わってくださった福浦、徳植ご夫妻他、120名もの参加者と共に、お祝いすることができた。かの地で、アシュラム運動がこのように大きく成長していることを主に感謝すると共に、私たち日本のアシュラム運動も、また日本のキリスト教会も、その成長を主に求めるものでなければならぬ。色々心配なことが私たちを襲ってくるが、その度に、あの復活の日の朝、「だれが墓の入り口からあの石を転がしてくれようか」と杞憂した女性たちが目を上げてみたように、「石は既にわきに転がしてあった」(マルコ16:3-4)のだ。下向き加減な、そして誰かが何かをしてくれないかと顔を曇らせている私たちは、天に目を上げ抵抗。そして素晴らしい神の出来事を目撃者となっていく。今回大変お世話になったブラジルのアシュラムの友を覚え、いよいよ来年50周年を迎える、私たちアシュラムセンターも祈りを合わせていきたい。

あとがき


(恵)

中止、又はオンラインに変更もあり。
ホームページ、電話等でご確認下さい。
直前の変更の場合あり！

4月の聖書教室など	
	【主な問い合わせ先】 0748-33-4030 アシュラムセンター
2(火)	Zoom聖書教室 (Zoom AM10:30、PM7:30)
8(月)	福岡聖書教室 (博多クリオコートホテル PM1:30)
13(土)	聖書と学ぶ会 (Zoom PM8:00)
15(月)	使徒書に学ぶ会 (Zoom AM10:30、PM7:30)
16(火)	大阪聖書教室 (大阪クリスチャンセンター AM10:30)
17(水)	みんなのカフェちいろば聖書入門講座 (京都・伏見区深草 PM1:30)
19(金)	センター聖書教室 (アシュラムセンター AM11:00)
21(日)	ちいろば牧師記念チャペル夕礼拝 (PM5:00)
22(月)	静岡聖書教室 (旧・英和女学院宣教師館 AM10:00、PM1:30)
23(火)	東京聖書教室 (御茶ノ水クリスチャンセンター 4F AM10:30)
23(火)	しみじみする会 (桜美林大学 荊冠堂チャペル PM2:30)
24(水)	美しい足の会 (Zoom AM10:30、PM7:30)

4月のアシュラムなど	
6(土)	榎本和子記念礼拝 (京都葵教会 PM1:00) 奉仕者 内山 友也師・榎本 空兄・橋本つ子姉・中山ゆき子姉
18(木) 20(土)	修道場アシュラム 0748-33-4030 (アンナ祈りの家、シメオン黙想の家) アシュラムセンター
29(月・祝)	第27回 阪神一日アシュラム FAX 0748-33-8856 (神戸聖愛教会 AM9:30~PM4:00) ホームページOK! 奉仕者 榎本 恵師 ご参加お待ちしております!!

5月のアシュラム予定	
16(木) 18(土)	修道場アシュラム 2~10名 0748-33-4030 (アンナ祈りの家、シメオン黙想の家) アシュラムセンター
26(日)	呉教会アシュラム 0748-33-4030 奉仕者 榎本 恵師 アシュラムセンター

6月以降のアシュラム予定	
6月15(土)	三重一日アシュラム
6月20(木)~23(日)	沖縄巡礼の旅
	20(木) 昼12:30 那覇空港集合 
	サマリア人病院 交流会
	21(金) 伊江島
	22(土) 第二外科壕 慰霊祭
23(日)	主日礼拝



あとがきより。ルージャラムス教会アシュラム40回記念に、大きな手作りケーキカット! 右から徳植ご夫妻、福浦ご夫妻。とてもお世話になり感謝。

1年間みことばを届けて下さいます。早天祈祷会の友。写真は今年の年頭アシュラム早天ご奉仕時。

みことば



早天への道にて

日本キリスト教団取手教会
牧師 金子敏明

ルカ福音書に聴く① 2:22~37

イスラエルでは男子の初児が生まれると、小羊一頭を贖いの献げものとする定められていました。神殿の境内で売られていた鳩を購入せねばなりません。場面は首都エルサレム。裕福な夫婦も多い中で、貧しい身なりのヨセフとマリアはぼろ布に赤ちゃんイエスを包んで、なげなしの金を払って鳩を購入してささげます。

ところがここにシメオンとアンナという二人の高齢者が登場します。シメオンは幼子イエスを来るべき救い主として祝福を告げます。一方のアンナも貧しい夫婦の元に生まれたイエスを「来たるべき方だ」と見極めるのです。

とはいえ彼らの望んだ救いが訪れるのは(イエス様が実際に福音を伝えるのは)これから30年後のこと。そして福音が世界に伝わるのはさらに後になります。その時には二人は既にこの世にはいないでしょう。でも彼らは自分たちのいない未来に神の国がくる、神の平和が実現するという希望を幼子に託したのです。それは見知らぬ土地での出産という不安だらけの若い夫婦にとって「このような信仰を持って生きよう!」という励ましになったはずです。

シメオンは「信仰があつく、聖霊がとどまっていた」。アンナは「神殿を離れず、夜も昼も断食と祈りをもって神に仕えていた」と書かれています。日本の教会で「熱心な信徒」と称される人とはどこか違う気がします。日本の教会の出席者は高齢者ばかりの状況です。もちろんそれ自体が悪いことではなく、むしろ恵みです。問題は高齢の信徒たちから未来への希望が語られないこと、祈らないこと、信仰者としてのよき姿勢を若い世代に提示できないこと...だと思えます。厳しい言い方になりますが私も高齢世代に近づいてきた今、自戒を込めつつ言わねばならないことだと強く思います。

私はアシュラム運動の「祈りと黙想」の精神にこの現状を打破する力を感じております。一年間宜しくお付き合いください。



世に打ち勝つ勝利。それはわたしたちの信仰です。たれが世に打ち勝つか。イエスが神の子であること信じている者はありませんか。一ヨネの手紙五：五節

書き手は私(和子)の好きな聖句を引用しています。現在の自分には不信仰だとおぼやかれないけれど、私にこれを書かせるのは、私に祈りを促しているのだと思います。榎本和子